

大宰府条坊跡は、大宰府政庁前からのびる朱雀大路の東西に碁盤の目状に道路によって土地が区画された古代の都市遺跡です。朱雀大路の東側を左郭、西側を右郭と呼び、南北方向の道を坊路、東西方向の道を条路と呼びます。一区画は約90m四方で、それぞれ「○条○坊」と現在の住所のように場所を表すことができます。

## 調査の概要

調査名：大宰府条坊跡第322次調査

所在地：太宰府市通古賀五丁目11番地内

調査主体：太宰府市教育委員会 文化財課

調査期間：平成29年8月7日～11月11日

調査面積：249.43㎡

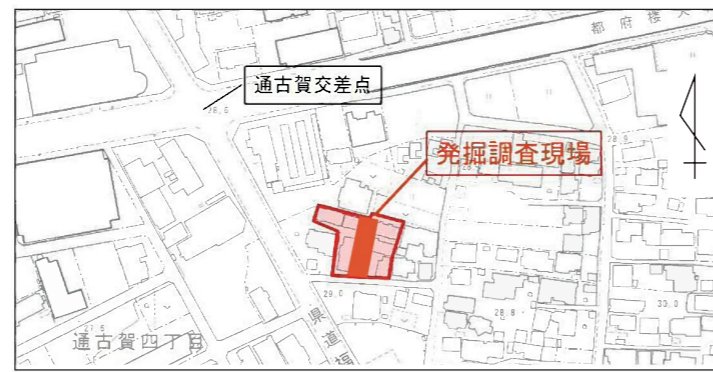
今回の調査地は右郭11条6坊の区画にあたります。調査ではこの11条路と考える道路や側溝、土地区画に関わる溝や井戸、土坑、小穴が見つっています。そのほか、近現代の瓦窯が見つっています。

## 主な遺構

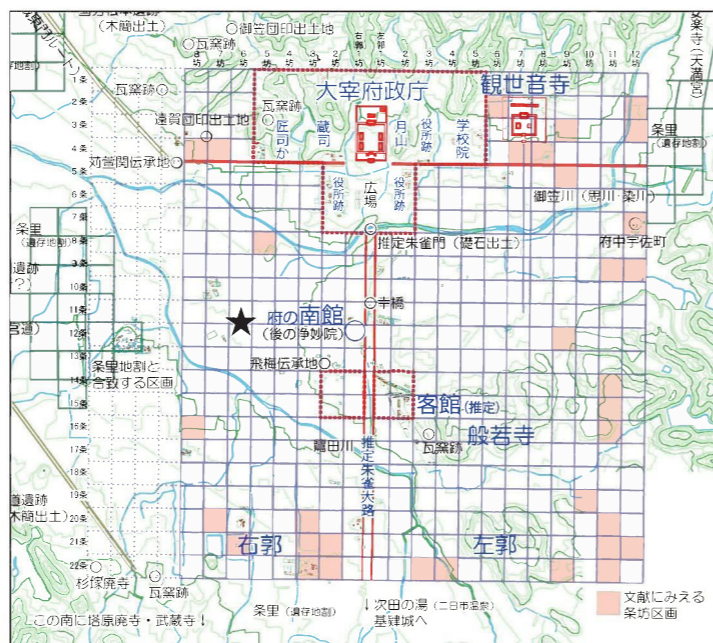
### 近現代

#### S-1 (だるま窯)

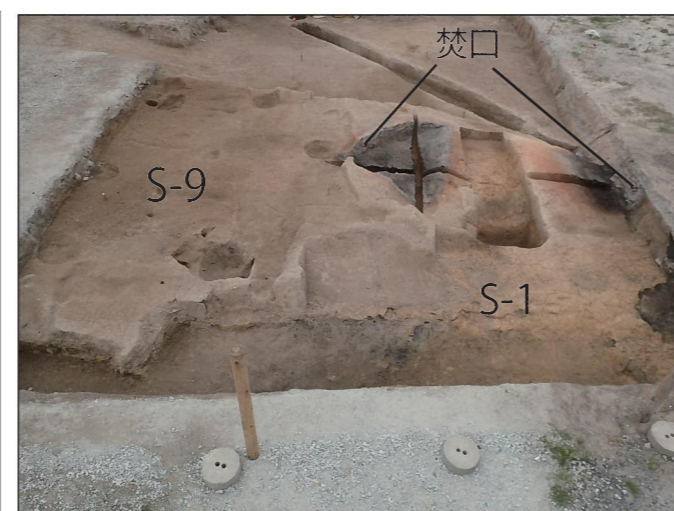
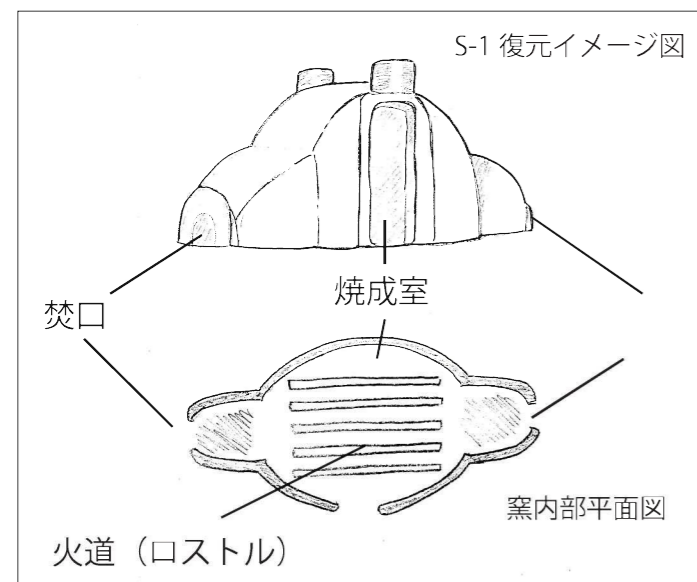
調査地の南側で見つかった窯跡です。だるま窯という<sup>いぶしかわ</sup>燻瓦を焼く平窯で、窯の両側には焚口がつき、中央に瓦を焼く焼成室があります。規模は長さ約4.5m、幅約2mを測ります。



調査地位置図



大宰府条坊復元図 ★322次調査地の位置  
「まるごと太宰府歴史展」図録より



瓦窯関連遺構 (南から撮影)

窯の底には瓦をしっかりと焼成するために火道の溝が作られた構造であることがわかりました。また、窯の壁には補強した跡があり、<sup>イラキ</sup>繰り返し操作していたこともわかりました。

#### S-9 (瓦をつくる作業場か)

S-1の西隣で見つかった長方形形の窪地です。S-1の西側焚口と接しており、この焚口に溜まった炭を掻き出した跡が見つっています。また、西側には瓦の材料と考える粘土が見つっており、瓦を作るための作業場と考えられます。



瓦に見える文字



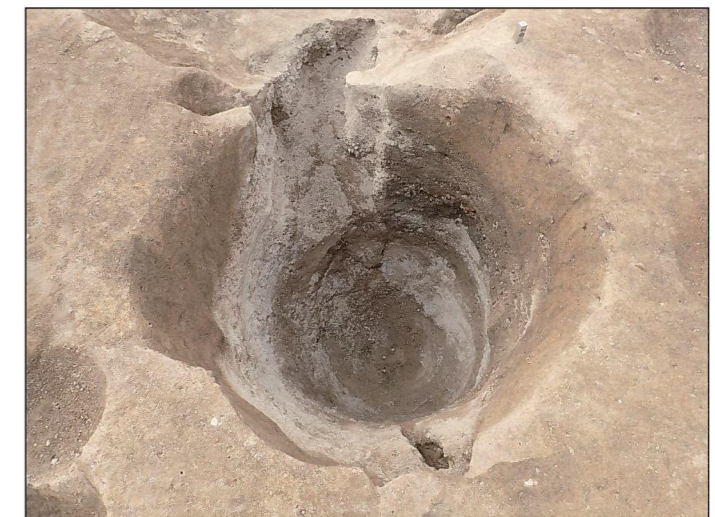
S-1 火道の溝跡 (東から撮影)

また、S-1で焼かれたと考えられる「通瓦徳」という印が押された瓦が見つっています。この地が通古賀という地名であることから、通古賀で作られた瓦であることを記したものと考えられます。

### 平安時代

#### S-40 (井戸)

調査地の中央で見つかった井戸です。直径約1.5m、深さは約1.7mを測ります。井戸の底には水をためるための小さな凹みの跡が見られます。井戸には平安時代の土師器の坏や甕の破片が入っており、井戸として使用されなくなった後は、ゴミ捨て穴として、利用されていたと考えられます。



S-40 井戸 (東から撮影)

#### S-35・50・55・75 (土坑)

平面円形の土坑で、調査では4基見つっています。大きさはまちまちで、直径約1～3mがあります。右の写真はS-75で、直径約2.8m、深さ1mを測ります。穴の中からは大量に平安時代後期の土器が見つっており、ゴミ捨て穴であったことがわかります。



S-75 土層断面 (北東から撮影)

## 掘立柱建物

調査地からは多くの小穴が見つかりました。このうち、S-60に沿って並ぶ建物跡が2棟見つかりました。

S-156は南北4間・東西3間（約8m×5m）以上。S-155は南北2間・東西3間（約5m×6m）以上の規模と考えられます。

出土遺物から平安時代後期の時代と考えられます。



S-156（南東から撮影）



S-155（南東から撮影）



遺構配置略図（2017年10月7日現在）

## S-60（南北にのびる溝）

調査地の東端で見つかった南北にのびる溝です。確認できた長さは約22m、幅は約1m、深さは約20cmを測ります。この溝は、大宰府条坊の右郭11条6坊のほぼ中央を走る溝で、坊間を東西に区画する役割をもった溝であると考えられます。溝からは平安時代後期の土師器が出土しています。



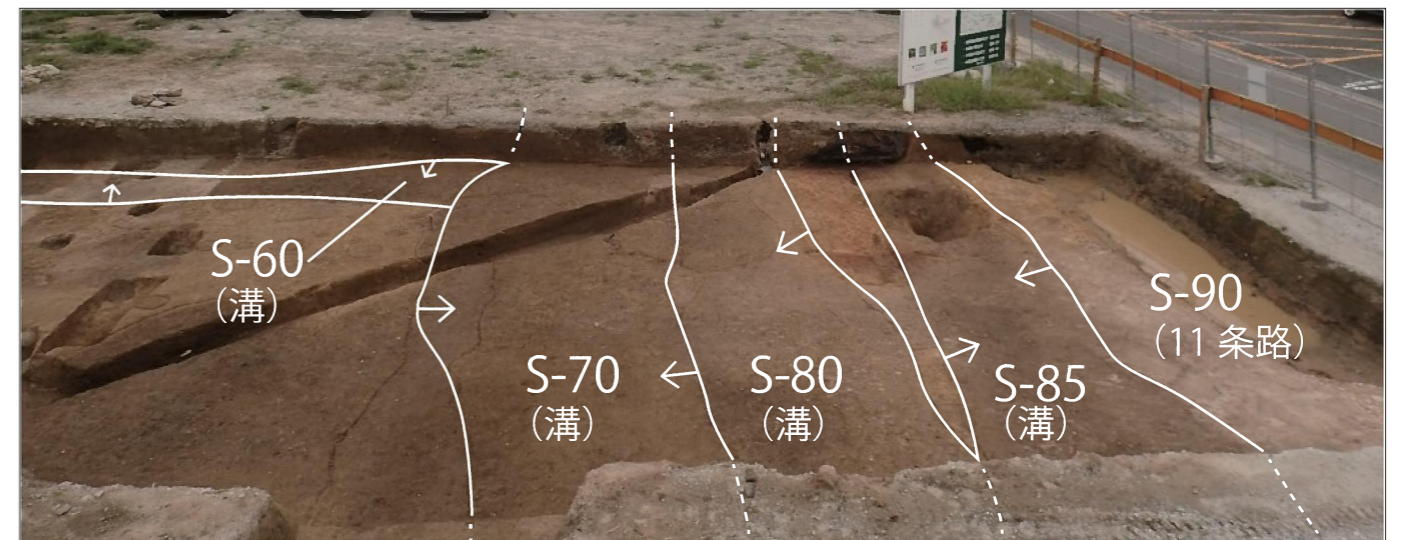
S-60 遺物出土状況（南東から撮影）

## S-70・80・85（11条路側溝等）

調査地の南側で見つかった東西にのびる11条の道路側の溝です。溝は3条検出しており、切りあい関係から、S-80が最も古く、次いでS-70・85が作られていることがわかりました。これらの溝は11条路に伴う側溝で、何度か作りかえられていることがわかりました。側溝の中からは平安時代後期の遺物が出土しています。

## S-90（11条路）

S-90は調査地の南端で確認した右郭11条路の路面です。路面には細かな石とともに大量の土器片が敷かれています。現在未調査部分のため、路面の北側に平行して走るS-70・80・85とともに、S-90に伴う北側側溝はどの溝か、対となる溝があるのか今後の調査で確認していきます。



右郭11条ラインでの遺構検出状況（西から撮影）

## まとめ

大宰府条坊右郭11条6坊の中央南端で、条坊道路や側溝、区画の役割を持つ溝を検出しました。また近接して、井戸や土坑、建物跡と考える平安時代の遺構が見つかり、当時の条坊の道路際の土地の使い方について、貴重な調査成果を得ることができました。